2021(令和 3)年度
一般社団法人　日本家政学会関西支部
第 43 回(通算第 99 回)研究発表会

研 究 発 表 要 旨 集

2021 年 11 月 19 日(金)～ 11 月 25 日(木)

誌上開催(担当:大阪樟蔭女子大学)

2021(令和 3)年度
一般社団法人 日本家政学会関西支部
第 43 回(通算第 99 回)研究発表会

◆研究発会開催の方法は誌上開催です。
研究発表要旨(300 字程度)の公開および研究発表原稿(45 字×60 行以上 70 行以内)の提出、研究発表登録者および学会参加登録者による質疑応答を以て誌上開催といたします。
◆研究発表要旨は支部ホームページ上で公開します。
◆研究発表原稿は研究発表登録者および学会参加登録者のみ支部ホームページにて閲覧できます。
◆研究発表原稿の公開期間は 2021 年 11 月 19 日(水)～ 12 月 24 日(金)です。
◆質疑応答の期間は 2021 年 11 月 19 日(金)～ 11 月 25 日(木)です。
◆参加費は無料とします。
◆問い合わせ先　〒577-8550 東大阪市菱屋西 4-2-26 大阪樟蔭女子大学
(一社)日本家政学会関西支部 第 43 回研究発表会 実行委員長・小林　政司
Tel　06-6723-8227　　E-mail　kasei-kansai2021@osaka-shoin.ac.jp

プログラム

A 会場　食物

A-01　行政主導による成人を対象とした食育活動の実態と課題
―食生活改善推進員の取り組みを事例に―
○縄手望未、青木美紗
(奈良女子大)

A-02　米粉パンの老化に及ぼす加水温度の影響
○山口真奈[1]、齋藤公美子[1]、大河内万彩[1]、武智多与理[2]、畠中芳郎[3]、萬成誉世[1]、髙村仁知[1]
([1]奈良女子大、[2]千里金蘭大、[3]（独）大阪産業技術研究所)

B 会場　被服

B-01　加齢に伴う皮膚の温冷覚感受性の変化
○谷明日香[1]、深沢太香子[2]
([1]四天王寺大短、[2]京都教育大)

B-02　オンデマンド型遠隔授業と対面授業のブレンド型ハイブリッド授業による被服構成学実習の授業実践
○末弘由佳理、山本　泉
(武庫川女子大)

B-03　薬師寺修二会花会式に飾られる花つくりについての調査
ー橋本家で受け継がれる6種類の花ー

○村田浩子、中井実咲、宮本亜香里、小松智菜美
（畿央大）

B-04　高野山真言宗の七条袈裟から考察する袈裟の存在意義

○畠野由佳理、小林政司
（大阪樟蔭女子大）

B-05　接触冷感の持続性及び回復性の測定と冷感評価

二谷紗奈、北佳奈依、○竹本由美子
（武庫川女子大）

B-06　繊維の媒染金属イオンの蛍光X線元素分析による検出　第1報

○古濱裕樹
（武庫川女子大）

B-07　繊維の媒染金属イオンの蛍光X線元素分析による検出　第2報

○古濱裕樹
（武庫川女子大）

C 会場　住居・健康

C-01　住民の任意な屋外活動が地域社会に与える影響

○竹原広実
（京都ノートルダム女子大）

C-02　集合住宅居住者を対象とした防災ワークショップの実践

○宮﨑千紗、生田英輔
（大阪市立大）

C-03　農村部在住高齢者におけるフレイル状態と活動量の関係

○東実千代[1]、大友絵利香[1]、久保博子[2]、城戸千晶[2]、佐々尚美[3]、小浜朋子[4]、磯田憲生[2]
（[1]畿央大、[2]奈良女子大、[3]武庫川女子大、[4]静岡文化芸術大）

D 会場　家族・子ども・教育・経済

D-01　学校現場におけるLGBTQの支援の現状とその意識
ー教職員に対する質問紙調査から検証ー

○東澤華名、八木利津子
（桃山学院教育大）

D-02　バングラデシュにおける経済状況と出産に関する一考察
　　ー地域 NGO が活動する Khalia 村と Rajor 村を事例にー

○青木美紗
（奈良女子大）

D-03　近年の中国における父子関係の研究動向について

○曹晶、表真美
（京都女子大）

D-04　学校における「家庭の掃除」に関する教育の歴史的変遷
　　ー明治初期の検定前家事科教科書における記述の初出ー

○表真美
（京都女子大）

D-05　中国における離婚後の親子関係の研究動向について

○盧子洋、表真美
（京都女子大）

研 究 発 表 要 旨

目次

A 会場　食物
B 会場　被服
C 会場　住居・健康
D 会場　家族・子ども・教育・経済

A-01

行政主導による成人を対象とした食育活動の実態と課題
―食生活改善推進員の取り組みを事例に―

○縄手望未、青木美紗
（奈良女子大）

本研究では、成人を対象とした行政主導の食育活動の役割や課題について考察することを目的とし、行政や食生活改善推進員協議会が実施する講習会を対象に参与観察及び関係者へのインタビュー調査を実施した。その結果、行政主導の食育講座を受講することで、「おいしさ」や「家庭料理＝手作り＝愛情」等各人によって異なる曖昧な概念の中に、「科学的根拠」に基づいた知識が組み込まれ、定量化されていくプロセスが見受けられた。このことから、「科学的根拠」への依存により、食を取り巻く多様な価値観を失う可能性も否定できないだろう。この点は、行政主導の食育の課題であると考えられる。

A-02

米粉パンの老化に及ぼす加水温度の影響

○山口真奈[1]、齋藤公美子[1]、大河内万彩[1]、武智多与理[2]、畠中芳郎[3]、萬成誉世[1]、髙村仁知[1]
（[1]奈良女子大、[2]千里金蘭大、[3]（独）大阪産業技術研究所）

【目的】演者らは、米粉パンを製造する際、加える水の温度（加水温度）を高めることで製パン特性が向上することを明らかにしてきた。本研究では、加水温度が米粉パンの老化に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。【方法】加水温度 5°C、50°C、60°C、70°C、80°C で調製したパンを、1h 放冷後、0～48h、室温で保存した。各試料について、糊化度測定、テクスチャー測定、官能評価を行った。【結果】加水温度 70°C で調製したパンでは、加水温度 5°C で調製したパンと比較して、保存による糊化デンプンの結晶化、パンクラムの硬化および食味の劣化が抑制されることが明らかとなった。

B-01

加齢に伴う皮膚の温冷覚感受性の変化

○谷明日香[1]、深沢太香子[2]
（[1]四天王寺大短、[2]京都教育大）

本研究は、加齢に伴う身体各部位の皮膚表面における温冷覚感受性の相違を追検証すること目的に行った。温冷覚感受性の測定では、若齢群、中年群、高齢群の女性を対象に開始皮膚温と温冷覚知覚時の皮膚温を測定した。また、各年齢群における開始皮膚温と温冷覚知覚時の皮膚温の差（ΔT）を温冷覚閾値とし、比較・検討した。その結果、開始皮膚温は加齢に伴い有意差がみられる部位が増える傾向が確認された。また、温冷覚閾値は、大腿・下腿・足背・手背といった末梢部で鈍く、それらは年齢とともに拡大することが示された。さらに、加齢に伴う温冷覚感受性の鈍化と個人差の拡大が確認された。

B-02

オンデマンド型遠隔授業と対面授業のブレンド型ハイブリッド授業による被服構成学実習の授業実践

○末弘由佳理、山本泉
（武庫川女子大）

兵庫県に対する 3 度目の COVID-19 感染症緊急事態宣言発令を受け、学期途中に対面授業から遠隔授業へと移行した。学期開始時点からの遠隔授業であった一昨年と異なり、今年度は既に対面において授業がスタートし、シラバス通りにスカートの製作段階であった。遠隔授業の形態は、教材動画を配信するオンデマンド型を主として、授業曜時には Google Meet を用いた質問時間を設けた。YouTube アナリティクスにより解析した結果、教材動画の繰り返し視聴がみられ、理解するに至るまでに複数回視聴していることがうかがえ、オンデマンド教材の一定の有効性が示唆された。

B-03

薬師寺修二会花会式に飾られる花つくりについての調査 －橋本家で受け継がれる 6 種類の花－

○村田浩子、中井実咲、宮本亜香里、小松智菜美
（畿央大）

畿央大学でアパレル分野を学ぶ学生は、4 年間の集大成である卒業研究では様々な繊維を素材として用いた作品制作を行う。その繊維の学びのために 2003 年より、奈良県北東部に位置する山辺郡山添村で活動をする大和高原文化の会の方々と絹の原料となる蚕の飼育を続けてきた。その活動の中で花会式の名で知られる修二会薬師悔過法要に供えられ時代を超えて連綿と受け継がれてきた花を作られる方々との出会いがあった。交流を深める中で、花造りを続けてこられた 2 軒それぞれの家に学生が通い花造りを体験し、その取材を記録し冊子に残したので報告する。

B-04

高野山真言宗の七条袈裟から考察する袈裟の存在意義

○畠野由佳理、小林政司
(大阪樟蔭女子大)

袈裟は、日本に仏教が伝来した飛鳥時代には出家者専用の衣服であったが、現在では出家在家の区別や宗派にもよらず、仏教徒にとって重要なものとされている。また、もともとは糞掃衣だったものから華美なものへと変化していった。本報告では、櫻池院（高野山）が所有する七条袈裟を調査分析した。また、文献調査を行い、高野山真言宗における七条袈裟について考察した。

櫻池院所有の七条袈裟は、金襴と呼ばれる衲衣である。この袈裟の素材は、絹、金糸であり、全体の織り方は、綴織である。特に七条袈裟は、特別な儀礼や儀式のときに着装する礼服としての意味が強いため、儀式を荘厳させるという意識が働いて生み出されたものだと考えられる。

B-05

接触冷感の持続性及び回復性の測定と冷感評価

二谷 紗奈、北 佳奈依、○竹本由美子
（武庫川女子大）

暑い季節に快適な眠りを得るため、接触冷感素材を用いた敷パッドや枕パッドが多用されている。内部に空気を多く含む構造であるため蓄熱しやすく、肌が接触する表地の接触冷感だけでなく、体温が伝わり続けた場合の接触冷感の持続性や回復性も確認する必要がある。しかし、これらの製品の冷感特性は接触冷感値のみで示されることが多い。そこで本研究では、市販の夏物接触冷感枕パッド数種類を用いて測定した接触冷感及び持続性、回復性の指標となる各特性値と、試料内部の温度変化を測定し、被験者による主観評価で得られた各評価値との関係について明らかにした。

B-06

繊維の媒染金属イオンの蛍光Ｘ線元素分析による検出　第１報

○古濱裕樹
（武庫川女子大）

近代以前の貴重染織品の非破壊染料分析にむけて、基礎データとなる繊維内の媒染金属の蛍光 X 線元素分析をハンドヘルド型装置により行った。ラック色素で染めた絹、毛、綿、ナイロンの４種類の繊維を、スズ、鉄、銅、アルミニウム、クロムの計７種の塩の種々の濃度の水溶液で後媒染し、光退色と長期室内保管した後の試料の計測を行った。まずは計測試料の背景に設置する鉛ガラスが計測に影響しないことを確認した。塩化スズ(Ⅱ)媒染は Sn の Lα 線、Lβ 線によっていずれの繊維も明確に検出できたが、塩化スズ(Ⅳ)媒染は毛とナイロンではピーク強度の増加が弱く検出は容易ではなかった。鉄も検出可能であったが、硫酸鉄(Ⅱ)と塩化鉄(Ⅲ)で幾らか異なり、毛、綿では慎重な観察が必要であった。

B-07

繊維の媒染金属イオンの蛍光Ｘ線元素分析による検出　第２報

○古濱裕樹
（武庫川女子大）

第 1 報に続き、別の金属および総括を報告する。アルミニウムはハンドヘルド型装置での蛍光 X 線の検出は簡単ではないが、スペクトルを拡大することで 1%o.w.f.という低い媒染濃度の絹や毛で検出することができた。銅とクロムは絹では極めて明確なピークが表れ、媒染濃度とピーク強度の相関も見出だせ、検出が容易であった。一方で検出が難しいものとして、毛のクロム媒染、綿の銅媒染が挙げられた。今回は一般的に行われる媒染の濃度よりも低めの濃度を中心に検討したが、それでも絹はスズ、鉄、銅、アルミニウム、クロムのいずれも検出が可能であり、毛や綿も金属の種類によっては慎重な分析を要するが検出は可能であった。これにより貴重染織品の非破壊染料分析が大きく前進する。

C-01

住民の任意な屋外活動が地域社会に与える影響

○竹原広実
（京都ノートルダム女子大）

人口減少、高齢化の進展、自然災害の多発など、コミュニティ基盤が脆弱になると住民の生活利便性、社会サービス、生活の相互扶助が困難になる。自助、公助だけでなく共助は防災力の維持、持続可能な地域づくりに重要である。住民の屋外活動の活発化は個人の健康に寄与するだけでなく、住民同士の交流機会を増やし地域社会の豊かさにつながると考える。質問紙調査を行い任意な屋外活動と地域社会との関連について３つの仮説をたて検証を行う。屋外活動の頻度は地域活動の参加度との関連、および居住継続意向と関連が、「趣味の農作業・庭花の世話」は社会活動との関連が見られ、住民の任意な屋外活動と地域社会への関心との関連が明らかとなった。

C-02

集合住宅居住者を対象とした防災ワークショップの実践

○宮﨑千紗、生田英輔
（大阪市大）

本研究では，大阪市淀川区の集合住宅 A の居住者 21 名を対象に，家具の転倒・移動防止対策を促進することを目的に，防災ワークショップを実施し，事後アンケートやワークショップで使用したワークシートから，その有用性や課題について明らかにすること目的とした．事後アンケートから家具の固定を実施している人は約 3 割，家具配置の工夫を実施している人はおおよそ 4 割であることが明らかになった．架空の LDK や寝室を用いたワークシートを使用したワークショップを通じて，家具の固定や家具配置の工夫を実施したいと回答した人がほとんどであり，自宅の LDK や寝室において危険個所を改めて認識し，防災対策の必要性を感じた人が多いと考えられる．

C-03

農村部在住高齢者におけるフレイル状態と活動量の関係

○東実千代[1]、大友絵利香[1]、久保博子[2]、城戸千晶[2]、佐々尚美[3]、小浜朋子[4]、磯田憲生[2]
（[1]畿央大、[2]奈良女子大、[3]武庫川女子大、[4]静岡文化芸術大）

超高齢社会における健康長寿に向けた取り組みとしてフレイルの予防が注目されている。そこで、自立して日常生活を送っている奈良県農村部に在住の高齢者 16 名（80±7.8 歳）を対象とし、近い将来介護が必要となる危険度の高い高齢者の抽出を目的に開発された基本チェックリストの得点と自身の健康感や実際の活動量の関係を分析した。チェックリストの総合得点が高いと平均歩数は減少する傾向があった。質問事項の領域別に事業対象者の選定基準で判定すると、認知機能で約 6 割、運動器の機能で約 4 割が該当した。自身の健康感は年齢や活動量、運動器の機能より認知機能や抑うつ気分に影響を受ける傾向がみられた。

本研究は JSPS 科研費 20K02336 の助成を受けたものです。

D-01

学校現場における LGBTQ の支援の現状とその意識
－教職員に対する質問紙調査から検証－

○東澤華名、八木利津子
（桃山学院教育大）

各校種の教職員 40 名を対象に、LGBTQ の児童生徒に対する「認知度」「実際の支援」「現状」「問題意識」の観点から望ましい対応を質問紙調査に基づき事例検討した。認知度は 100%だったが、個別対応が主で集団指導に苦慮し組織的な支援体制や人的環境面の課題が明らかである。「実際に支援できている」の回答は、中高教員より小学校教員の割合が高く目視による対応重視の傾向があった。養護教諭への追調査（聞き取り）では、最多出現語は【情報】で【生徒】【教員】【トイレ】【当事者】が頻出し、「身体的性と性自認の相違」の周知問題や世代間における教員の認識差などが示された。

D-02

バングラデシュにおける経済状況と出産に関する一考察
－地域 NGO が活動する Khalia 村と Rajor 村を事例に－

○青木美紗
（奈良女子大）

本研究は、経済発展が著しいバングラデシュ農村において、世帯の経済状況と出産の関係を明らかにするために、Madaripur 県 Khalia 村と Rajor 村の 2 村を対象に、2021 年 1 月～5 月までの 5 か月間において、1 年以内に出産を経験した女性 250 名を対象とした質問紙調査を実施した。結果、収入によって選択肢に格差が生じており、希望する出産場所を選択できていない状況が見受けられた。また、出産費用だけでなく、子育て費用も高いという印象をもっている女性が多いことから、経済面での不安を抱えながら子育てをする状況に陥りやすくなっているのではないかと推察される。

D-03

近年の中国における父子関係の研究動向について

○曹 晶、表 真美
（京都女子大）

近年、中国における家庭教育への父親の関与が重視されるようになっている。しかし、「父親不在」の現象はまだ存在している。ほとんどの父親は子供の教養に直接関与せず、家庭の経済的責任を担っている。経済以外の関与は、感情の表現、励まし、交流、支援への関心などの順となっている。また、父親は地域によって子どもとの感情的な交流を重視するが、経済、文化などの影響を受け、家庭教育への参加方法には大きな地域差がある。また、非一人っ子家庭と一人っ子家庭での差も明らかになっている。中国における研究の多くは乳幼児に向けられており、中高生と大学生の家庭教育における父親の関与に関する研究は少なく、父親の視点からの研究が多い。

D-04

学校における「家庭の掃除」に関する教育の歴史的変遷
—明治初期の検定前家事科教科書における記述の初出—

○表 真美
（京都女子大）

家事科教科書における「家庭の掃除」に関する記述の初出を明らかにするために、20 種の検定前家事科教科書を対象として分析を行った結果、20 種中 11 種の家事科教科書に掃除に関する記述が確認された。初めての家事科教科書である、『家事倹約訓』（1874）に既に記述があり、原典である ”Chamber’s information for the People”（1833）について調査したところ、掃除に関する記述が見出され（p.786）、『家事倹約訓』の記述はほぼ全訳であることが分かった。家事科教科書における「家庭の掃除」に関する記述は、イギリスの著書から始まったことが明らかとなった。

D-05

中国における離婚後の親子関係の研究動向について

○蘆 子洋、表 真美
（京都女子大）

ここ数年来の中国では、家族が多様化、特に離婚率の上昇に連れて、ひとり親家族、再婚家族、祖父母と孫だけの家族などが増えている。そこで、中国における離婚後の親子関係についての文献調査を行った。離婚後の親子関係の研究は、主に法律学、社会学、教育学の分野において展開されている。中国では広義の監護という概念を採用しており、現行法には「親権」という用語が明文化されておらず、親権制度も完備していない。社会学の分野では、ソーシャルワークの支援が、家庭内部の関係改善の役に立つことが報告されている。また、教育学では、相談例 100 例を分析した結果、離婚後の家庭教育対策を行う社会教育学が必要であることが提案された。

2021（令和 3）年度
一般社団法人 日本家政学会関西支部
第 43 回（通算第 99 回）研究発表会
実行委員会

小林政司　（大阪樟蔭女子大学）（委員長）
北尾悟　（大阪樟蔭女子大学）
真殿由加里（大阪樟蔭女子大学）
小出治都子（大阪樟蔭女子大学）

2021（令和 3）年度　一般社団法人 日本家政学会関西支部
第 43 回（通算第 99 回）研究発表会

研究発表要旨集

編集・発行　一般社団法人 日本家政学会関西支部
第 43 回（通算第 99 回）研究発表会実行委員会
〒577-8550
東大阪市菱屋西 4-2-26
大阪樟蔭女子大学

発行日　2021（令和 3 ）年 10 月 30 日

無断転載禁止